

## 第9回奈良便教会

2016年2月14日(日)

第9回奈良便教会を開催することができました。雨風の強い中、11人で開催しました。今回は小学生、中学生、クラブ職人、小学校、中学校、特別支援学校の先生、また教師を目指し勉強中の方と、気づけば様々な立場におられる方々でした。

一つの場に様々な方々が集まり、一つの場をお借りし、心磨きする。結果その場が輝き、私たち自身もそれぞれが大切なものを得ることができる。今回改めてその素晴らしさを感じました。始める前と終わった後では、トイレ全体の様子に違いがありました。床や壁、便器が輝いていました。それは、する前に自分自身が心で感じるができなかったのかもしれませんが。トイレ掃除を通して、トイレが輝いていることに気づける人間に変わったのだと思います。人として大切な感性を磨くことができると改めて感じました。



昨年まで小学生だった中学生。2年担任を持たせてもらいましたが、部活よりも楽しい。といつも言ってます。卒業してから小学校に来るたびに、まずはトイレチェックするくらいです。「きれいやん!」と言いながらも無言で最後まで磨いていました。中学校に送り出してからも、つながりを持たせていただいていること、トイレ掃除のおかげだと思います。

それぞれが便器に向かわれる。沈黙の時間が続きました。便器を磨いている音が、普段の生活から心に積もっていく埃を少しずつ払っていくかのような感じがしました。

参加したI先生の小学2年生のお子さんも夢中に磨いています。隣同士、親子で磨かれている様子もとてもキラキラ輝いています。思わず笑みがこぼれました。



普段であれば、あまり目につかない窓のレール。換気のため窓を開けると、虫の死骸がたまっていました。自分一人であれば、見て見ぬふりをしてしまいそうな場所。初めは道具を使っていましたが、途中からは覚悟を決め、指で取っていました。その覚悟の決まった大きな一歩は、目の前に困難なことが出てきたときに必ず役立つ一歩だと思います。窓のレール一つに心地よい気が通った気がしました。



手洗い場の排水溝には埃などがたくさん詰まっていた。ふたを開けないと気づかないところ。見えないところにまだまだ目を向けていけないといけない、まだまだ見えているところに目がいているなど実感しました。

窓磨き。M先生が丁寧に教えておられました。道具を生かした掃除の仕方。曇っていた窓ガラスも石鹼とタオル、新聞紙でピカピカに。本来ピカピカであるから鏡としての機能が生きてくる。最近学ばせて頂く中で出てくる、「そのもの本来の姿を生かす」鏡としての本来の状態が戻り、鏡ひとつに気に入りました。



今回もたくさんの気づきがありました。「そっと背中を押してあげられる人」になることの大切さ。その場が持つ大きなパワーも改めて感じます。感想の中には、見えないところに目を向けるのももちろん大切。でも子どもを目に浮かべると、見えているところをきれいにしていくことも大切なのかなあ。という意見も。また「きれい」は誰もが感じる。始める前と終わった後に感じた「きれい」の違い。始める前が汚かったのではなく、「きれい」になったから感じられたこと。トイレという一つの場が持つ本来の姿を少し感じた気がしました。

また明日から「良い氣」「良い風」を吹かせていける一人になっていけるよう、丁寧に1日1日を過ごしていこうと思いました。

(世話人：小峠大地)